



公益財団法人 日本スポーツ協会公認
茨城県スポーツ指導者協議会

会 報

第 86 号

令和5年3月15日

発行人

茨城県スポーツ指導者協議会
会 長 照 沼 一 美

事務局 〒306-0204

古河市下大野 1463-4

事務局長 鈴木 義 夫

TEL・FAX 0280-92-4555

会員数 1,774 名 (R5.3.15 現在)

会長あいさつ



茨城県スポーツ指導者協議会
会長
照 沼 一 美

スポーツ指導者協議会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のうえ、ご活躍のこととお慶びを申し上げます。

令和4年度の本協議会計画通り四会場においてスポーツ指導者研修会を実施することが出来ました。研修会実施にあたり公益財団法人茨城県スポーツ協会のご指導のもと、受講者の全面的なご協力をいただきました。併せて本協議会研修担当役員の皆様には過度なご負担をおかけいたしましたがおかげさまで研修会関係からの新型コロナウイルスへの感染は報告されていません。衷心よりご協力に感謝を申し上げます。また県内各支部の計画する研修会および講習会も感染防止対策をして万全に実施することができました。茨城県スポーツ指導者協議会は新型コロナウイルス感染の収束が一日も早く訪れることを願っております。みなさまも自身で出来る対策を惜しまずことなく感染予防に努力していきましょう。

会員の皆様におかれましては、これらの諸事情をご理解頂き、研修会参加の際には過分なご協力をお願い

申し上げます。会員の皆様におかれましては新年度の研修会等の最新情報を取得され、公認の有資格者であるスポーツ等の指導者は、より良い指導者として指導方法を研鑽され、理想の指導者への道を歩まれますようご期待申し上げます。



公益財団法人 日本スポーツ協会公認
スポーツ指導者のために

資質向上と
活動の推進を

連帯感を深め
組織的活動を

目 次

会長あいさつ	1
令和4年度本協議会活動報告	2
顧問あいさつ	2
(公財)茨城県スポーツ協会加盟競技団体紹介	3
専門委員会事業報告	4
茨城県スポーツ指導者研修会報告	5
令和4年度関東ブロックスポーツ指導者協議会研修会報告	6～7
支部だより	8～10
協議会事務局便り	10

令和四年度 本協議会活動報告



茨城県スポーツ指導者協議会
事務局長

鈴木 義夫

今年度の本協議会総会は、令和4年4月19日（火）に水戸市・茨城県水戸生涯学習センター分館二階会議室で開催しました。総会では、まず（公財）茨城県スポーツ協会根本専務理事より小松崎一郎様、高柳幾臣様が永年表彰を授与されました。

続けて、本協議会照沼会長より、県北支部推薦で滑川和之様、鈴木三枝子様、中央支部推薦で野々村律子様、横須賀良子様、坂本禮子様が功労賞を授与されました。

令和3年度本協議会事業報告及び収支決算報告並びに令和4年度事業計画案及び収支予算書案が、原案通り全会一致で承認を得られました。

本協議会の主な事業である、更新研修会（全県研修会・地区研修会）を4会場で開催しました。

全県研修会は、研修委員会が主管し令和4年8月7日（日）に水戸市・J Aグループ茨城教育センターで2部屋に分けて同時に開催しました。

会場の入場制限を設けて申込者128名に対し、受講者104名（会員84名・未会員20名）が2部屋で受講しました。

水戸地区研修会は水戸支部が主管し令和4年9月4日（日）に水戸市・

J Aグループ茨城教育センターで2部屋に分けて同時に開催しました。会場の入場制限を設けて申込者126名に対し、受講者101名（会員80名・未会員21名）が2部屋で受講しました。

県南地区研修会は県南支部が主管し令和4年11月13日（日）に阿見町・本郷ふれあいセンターで開催しました。

会場の入場制限を設けて申込者150名に対し、受講者117名（会員91名・未会員26名）が受講しました。

県北地区研修会は県北支部が主管し令和5年2月5日（日）に日立市・茨城県県北生涯学習センターで開催しました。

会場の入場制限を設けて申込者80名に対し、受講者62名（会員52名・未会員10名）が受講しました。

本協議会は、会報を毎年2回3月中旬及び9月中旬に発行、広報委員会が原稿依頼、研修会取材、文書校正など編集を行い、印刷製本後に本協議会事務局から各支部事務局を通じて、会員皆様へ無料で配布しており、その他に各支部が独自の研修会、講習会などの開催と支部便りを無料で発行しております。

茨城県に登録した公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者は、令和4年1月30日現在の登録人数は、次の通りです。

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者茨城県登録者数
（令和4年1月31日現在）

	支部名	有資格者数（名）	会員数（名）
1	県北支部	354	174
2	水戸支部	469	176
3	中央支部	730	338
4	鹿行支部	257	133
5	県南支部	1,529	627
6	県西支部	573	267
7	県外	142	42
茨城県全体		4,054	1,757

公認スポーツ指導者は、資格取得後及び資格更新後は、3年6カ月以内に1回以上の研修会を受講する必要があります。

本協議会主催する全県研修会、各地区研修会に受講された方々には、資格更新の案内通知書が、公益財団法人茨城県スポーツ協会から送付されます。

本協議会は、毎年4月及び10月に資格取得及び資格更新が完了された公認スポーツ指導者に対し、会員入会（更新）の案内文書を送りますので、ご理解されてご協力を宜しくお願い致します。

今後とも茨城県スポーツ指導者協議会の発展に際し、会員皆様の格別なるご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。

顧問あいさつ



茨城県スポーツ
指導者協議会顧問

大畠 宗夫

本年も、県スポーツ協会と連携を図りながら新型コロナウイルス感染症防止対策を考慮し、安全な研修会を実施できるよう、本協議会の組織する研修委員会と各地区協議会支部組織が企画し、登録している公認スポーツ指導者へ手続き案内を準備しています。

研修は、指導者としての新しい情報を伝えていく従来の日本スポーツ協会の必須項目のテーマに沿って県スポーツ協会のスポーツ振興事業とともに目標を設定し、公認スポーツ指導者が地域スポーツ活動で実践力を高められる支援を行いたいと思います。

最近の新型コロナウイルス感染症の感染減少状況に伴い、スポーツ観戦もマスク越しではありますが声援を送られるようになり多くの明るいニュースも聞かれるようになりました。

本会の本来行われていた集合する対面開催を継続する指導者更新研修会は、期限保留が生じないよう県に登録されている指導者に対し、共通に参加情報と会員加入ご案内でできる体制により協議会本部が取り組んでいます。

現場対応の実情を知る意味において、参加をされる受講者に対し、コ

ロナ防止対策と実施に関するアンケート調査への協力をいただき、実施計画を改善しています。参加の皆様には資格の有効期限内に余裕のある期日に受講をされるようあらかじめ計画いただければと考えます。

現在の協議会は、県内各地区の公認指導者の登録に関する数値データを当該年度と過去の状況を比較し、傾向の調査からゆくりではあります。新規会員の加入増員を目指しているわけですが、今後の受け持ち事業として、支部組織が、地域との関わりを活かし、現場で対面する独自研修会や競技団体研修会を実施されることも可能と考えます。

今後、県内登録されている多くの指導者の皆様には、資格の継続事業と地域を元気にできる体づくりや地域スポーツ活動にご参加いただければと思います。

《公財》茨城県スポーツ協会 加盟競技団体紹介

一般社団法人 茨城県水泳連盟
地域指導者委員長

鈴木 誠

「泳げた！」この感動を共有することができるのは現場で指導をしているコーチである。その、コーチを支えているのが、一般社団法人茨城県水泳連盟地域指導者委員会（以後地域指導者委員会）だと考えている。現在多くのスイミングスクールやフィットネスクラブで水泳の指導が

行われている。年齢や性別にかかわらず、誰もが同じように楽しさを共有できるスポーツとして親しまれている。

水泳は、水を媒体として行われるスポーツで、教わらなくてはできないようにならない。最近では室内プールの普及に伴い、強烈な夏の日差しや梅雨時の寒さといった過酷な条件での指導は少なくなっているが、水の中では呼吸ができないという、一歩間違えると命に係わる環境の中で活動が行われている。初心者指導とはいえ、指導者には高度な技術と知識が求められている。

茨城県では、教師及びコーチ1、4の登録者が約三百六十名。その他、水泳連盟で制定している基礎水泳指導員が約百二十名。総勢五百名近い資格をもった指導員が活動している。コーチを職業として競技スポーツの最先端で指導をしている者から、地域のスポーツ少年団等でボランティアとして活動している者や、コーチの資格を得るために指導者の育成のお手伝いをするスタッフまで様々な取り組みで「指導」に関わっている。

ちなみに、コーチ3では、コーチ1・2の「水泳」という大きな括りから「競泳」「飛込」「水球」「アーティスティックスイミング（旧シンクロナイズドスイミング）」「オープンウォータースイミング」の五つのカテゴリーで競技力向上を目指している。

水泳競技の場合、更新研修を水泳連盟単独で開催することになってお

り、茨城県スポーツ指導者協議会関係者の皆様とお会いする機会が少なく、お互いに活動の様子が見えにくい状況があるが、毎年基礎水泳指導員養成講習会及び更新研修を行っている。更新研修は、水泳の指導者として知っておきたいことや身に付けておきたいことを中心に実施している。

大変意義のあるビギナーズレッスンとなり、定員を大きく上回る参加人数となり盛況をいただきました。このような楽しみ方を提供することにより、ジュニア層の新規参加を促し、テニス愛好者の底辺拡大を図るとともに健全な青少年育成に寄与することができると考えております。今後も茨城県ジュニア世代の強化に努めて参ります。また、茨城県テニス協会、現在加盟団体ならびに個人登録者を募集しております。協会は、おもに県内に所属するテニスクラブ、学校体育団体、会社、団体、事業所体育



茨城県テニス協会
理事長代理
沼尻 満男

「ビギナーズレッスンのご報告」

茨城県テニス協会主催で令和四年十月十五日（土）に、小野田倫久プロ（日本テニス協会公認S級エリートコーチ／元日本ランキング3位／2002年アジア大会団体金メダリスト）をお招きしてのビギナーズレッスンを、子供たち向けに開催しました。小野田プロは、人気ユーチューブの「スターテニスアカデミー」のMC兼ヘッドコーチを務めら

れております。プロ選手に触れる機会を提供し、子供たちのテニスに対する憧れや、将来の夢を抱いてもらうことで、茨城県のテニス競技レベルの向上を目指す目的で開催しました。

大変意義のあるビギナーズレッスンとなり、定員を大きく上回る参加人数となり盛況をいただきました。このような楽しみ方を提供することにより、ジュニア層の新規参加を促し、テニス愛好者の底辺拡大を図るとともに健全な青少年育成に寄与することができると考えております。今後も茨城県ジュニア世代の強化に努めて参ります。また、茨城県テニス協会、現在加盟団体ならびに個人登録者を募集しております。協会は、おもに県内に所属するテニスクラブ、学校体育団体、会社、団体、事業所体育



専門委員会事業報告

「総務委員会」



総務委員長

和田 弘行

今年度の総務委員会は、令和四年十月二十七日（木）水戸市生涯学習センター分館において、令和四年度第一回総務委員会を開催し、協議会規約及び細則の条文を検討しました。その結果、実態との整合性を図ることとし、以下の通り案がまとまりました。

- (一) 令和四年度本協議会規約及び細則の見直しについて
 - (二) 令和四年度常任理事会からの付託事項の検討について
 - (三) その他諸事項
- 以上、条文見直し案を常任理事会にご提案申し上げ、ご審議賜りたいと存じます。

第二回総務委員会は、令和五年二月二日に第一回総務委員会と同じ会場で開催しました。



「広報委員会」



広報委員長

君和田 治也

スポーツ指導者協議会では指導者協議会活動の情報誌を、9月と3月に年2回発行しています。内容的には長年にわたり各地域やスポーツ種目にて活動された功労者の紹介（受賞者あいさつ）や県内各支部の活動紹介（支部だより）など掲載しています。昭和54年から発行され令和4年にて86号まで発行される予定となっています。今迄に発行された先輩関係者には感謝申し上げますと思います。

令和元年の広報誌79号にも記載いたしました。時代も変わり、今では会報誌もWeb版で見ることができるようになっています。すべてがWeb版になればスポーツ指導者協議会活動内容を知っていただく機会が減少する事も有りえるので、九月に発行するものは、今まで通り会報誌として発行・発送し年間の実績報告や年間計画、研修予定や研修参加申し込み書を同封するやり方も有りかなと思います。

そして、3月発行の広報誌にはWeb版だけでも良いのではと思います。

広報誌の予算削減や広報誌を作成する苦勞を削減する事にもなります。また、このような会報誌にも、スポーツ指導者協議会に協賛してい

ただくスポンサー広告でも入れることが出来れば良いのではないかと思います。3年前と同じ意見を記載してみました。

今後も広報委員会より原稿依頼がありましたら、ご協力よろしくお願いたします。

「研修委員会」



研修委員長

渡辺 吉光

新型コロナウイルス感染症拡大の渦中、指導者の皆様におかれましてはご健勝のうへ、研鑽、ご指導に活躍の事とお慶び申し上げます。

そんな中、喜んでいいのかどうか分かりませんが、制限が緩和されようとしています。

三月十三日、個人判断にはなりませんが、マスクの着用義務が解除となり、五月八日から感染症法上の位置づけが、「2類」から「5類」に移すことになるという聞いております。

いずれにしても私たちコーチに取りまして「コーチングし易い環境になつてくれればなあ」とひたすら祈るばかりです。

さて、既にご存じと思いますが、いよいよ中学校の部活動が令和5年7年度にかけて、先ず休日から段階的に地域へ移行されます。コーチの皆さんは茨城県教育庁の部活指導員に応募、登録されましたでしょうか？ 随時登録者を募集しているとの事です。

令和4年度、研修会概要

① 全県研修会（八月七日）
講演Ⅰ「スポーツの力、挫折と成功の軌跡」 中山由起枝先生

講演Ⅱ「プレイヤーを中心とした指導方法」 加藤敏弘先生

② 水戸地区研修会（九月四日）
講演Ⅰ「コミュニケーションと選手の成長」 岩上紋子先生

講演Ⅱ「スポーツと栄養（栄養と疲労回復）」 泉妻剛先生

③ 県南地区研修会（十一月十三日）
講演Ⅰ「生き活きとした選手とチームをつくるために」 津村和寿先生

講演Ⅱ「指導者に必要なコミュニケーションスキル」 網師野公也先生

④ 県北地区研修会（五年二月五日）
講演Ⅰ「パワハラと選手の成長！悪気はないのになぜ？」 茂木ゆういち先生

講演Ⅱ「コミュニケーションが築くキャリアデザイン」 佐藤誠一先生

いずれの講演も刷新的な講演で大変参考になりました。ありがとうございます。

令和5年度、研修会開催予定につきましては、事務局便りを参照してください。全県研修会は毎年行われます。今年度ご協力をいただいた運営委員の皆さんには、今後も本協議会、各支部の発展と活性化、そして、充実した研修会を推進できるよう是非とも継続してご支援・ご協力をいただけますよう、この場をお借

りしてお願いたします。

研修委員会は、これからもコーチ（指導員）の皆様にご満足いただけますよう不具合点を解消しつつ役員全員一丸となり研修の資質向上を図り、充実した研修会となりますよう、努力してまいりたいと思います。

令和四年度茨城県スポーツ指導者 研修会報告

水戸地区研修会



水戸市

小野 由美

令和四年度茨城県スポーツ指導者研修会水戸地区研修会に参加しました。

講演Ⅰでは、岩上紋子氏（日本スポーツコーチング協会・スポーツコミュニケーションアドバイザー＆コーチ）による「コミュニケーションと選手の成長」という題目での研修を行いました。

コミュニケーションとは、選手とチームの力を最大限に発揮させて、目標達成の確率を高める影響力だと学びました。研修中は、講師が一方的に話を進めるのではなく、ペアになり考え、発言しながらコーチングを学びました。参加者全員でコミュニケーションについて考えたり、コミュニケーションの方法を共有したりすることができました。

チームに持ち帰り、ダニエルキム



成功循環モデル（ゲットサイクル）に当てはめ、選手たちから信頼を得られ、選手たちが育つ環境の提供をしていきたいと思ひます。

講演Ⅱでは、泉妻 剛氏（国際予防医学協会顧問のめサポート代表による「スポーツと栄養（栄養と疲労回復）」という題目での研修を行いました。

スポーツをするうえで、いつ・何を食べるとパフォーマンスが最大化するかというところに一番興味があり、講演を聞かせていただきました。効果的な回復を促す食事術、筋肉や筋肉量に効果的な栄養摂取時間、パフォーマンスを安定させる食事時間など、泉妻 氏の野球をしてる息子さんの実例や具体的に何を食べると効果的なのか教えていただきました。

泉妻 氏の講話は大変興味がある内容で、研修後、家族や自分のパ

フォーマンスのために、栄養を考えた献立・食事を摂るようになりました。良い睡眠と鳥胸肉百グラムを二週間食すると、長時間疲れない身体になることを教えていただきました。是非、皆様も実践してみたいかがでしょうか。

県南地区研修会



稲敷市

根本 勝行

講演Ⅰでは、「活き活きとした選手とチームをつくるために」というテーマで講演を頂きました。特に心に残ったポイントは、以下の五点です。

①指導とハラスメントの違いについて指導者、コーチはきちんと認識すべきであるとのこと。
②組織が成功を納め、より良いサイクルを生み出すためには、人と人との「関係の質」を高めることが大切であること。

③相手の自発的な行動を促進させるためのコミュニケーション技術が「コーチング」であり、選手自身の可能性に気付かせたり、勇気や自信をもって目標にチャレンジできるような心を育ててあげることが大切であること。

④相手との信頼関係を築くことが第一段階であり、最重要であること（精神的な安定・安全を確保すること・相手の人格を尊ぶこと・言葉より態度、行動で語ること・相手の物語に



関心を持つこと）
⑤コミュニケーションスタイルのタイプを知り、コミュニケーションの取り方を探り、指導方法を工夫していくことが、個人や集団を伸ばす可能性を高めていくことにつながる。

講演Ⅱの「指導者に必要なコミュニケーションスキル」で特に印象に残ったことは、「良質なコミュニケーション」をとるためには、「良質な質問」が必要だということです。トレーニング効果やチームの向上のために、「GROWモデルの質問」

（①目標の明確化、②現状の明確化、③方法の発見・選択肢の創造、④行動の具体化）をいかに充実させられるかが大切だと感じました。

今回の二つの講演から、指導者・

コーチ側の人間関係づくりの仕方がマンネリ化してしまわないように、「相手はどう生かすか」を考えて向き合っていかなければならないと考えさせられました。

令和 4 年度関東ブロックスポーツ指導者協議会研修会

1 日 時：令和 4 年 11 月 20 日（日）～21 日（月）

2 会 場：ホテルレイクビュー水戸

3 出席者：関ブロ会長 照沼 一美（茨城県会長）

関ブロ副会長 山本 健二（神奈川県会長），

関ブロ理事長 鈴木 満（神奈川県理事）

関ブロ監事 磯 元一郎（栃木県会長），市村 一司（山梨県）

関ブロ会計 鈴木 義夫（茨城県事務局長）

渡邊 悟（山梨県会長），野呂瀬 秀（山梨県副会長），山田 龍彦（東京都会長）

川喜田 靖彦（千葉県副会長），茨城県スポーツ協会（根本 聡専務理事，大竹 良彦事務

局長，水貝 保事業課長，中口 直仁指導主事），茨城県スポーツ指導者協議会 13 名

来 賓：清水 秀一（茨城県教育庁保健体育課 課長）



4 研修会日程

【1日目】

（1）開会式

主催者あいさつ：照沼 一美（関東ブロックスポーツ会長）

開催県あいさつ：根本 聡（茨城県スポーツ協会専務理事）



（2）基調講演



演 題：『学校運動部活動を輝かせる公認スポーツ指導者の役割』

講 師：茨城大学人文社会科学部教授 加藤 敏弘氏

スポーツはラテン語の「deportare」が語源であり、海を出ていく、気晴らし、チャレンジを意味する。

・日本の戦前・戦後等の歴史的背景を身振り手振りを交え運動部活動や教育環境の変遷を説明された。

近年の大きな変化

- ・2012 年（平成 24）の体罰事案による死亡事故
- ・2013 年（平成 25）スポーツ界における暴力行為根絶。

宣言（日体協他多数の団体）

- ・2013 年（平成 25）「運動部活動の指導ガイドライン」（文部科学省）
- ・2018 年（平成 30）「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（スポーツ省）

また、少子化問題や働き方改革等で大きく変化している。

スペインのバスケットボール協会を例に※ゲームを支える指導者 ※しっかり審判をする

※ゲームを通してルールを教えるなどガバナンスの大切さを説かれた。

種目を超えての関わり、コミュニティが大切であるとアピールされた。



（3）研究協議

各都県の現状把握と今後の展望と対策

「山梨県→神奈川県→千葉県→東京都→栃木県→茨城県」



山梨県 渡邊 悟



・会員数は約 2,000 名で有資格者全員が加入している。(2,000 名で推移)しかし、会費は任意であり 338 名が納入している状態です。(年会費 1,000 円/人)

・執行部会や理事会、総会など開催して情報交換、資質の向上とかを図っている。
・県スポーツ協会から年間 40 万円を補助していただいている。
・スポーツ指導者協議会の存在認識がされているのかという声が出てきている。スポーツ協会との話し合いや他の団体との連携ができるよう動いている。
・中学校部活動の「スポーツの地域移行」ということもあり、スポーツ指導者の紹介を兼ね行政との連携・協力等を継続的にやっている。執行部ではなく、市町村指導協が行っていくのが望ましい。

神奈川県 山本 健二



・今年度役員の改選があった。
・ここ数年の課題は、会員の高齢化と新会員の加入率が大変低いことです。20 年前から比べると右肩下がりでここ数年毎年 50 名の減となっている。有資格者 1,000

名で会員数は 480 名と入会率が低い。
・更新研修会を年 7 回実施している。(県指導協 1 回、地域指導協 6 回)この研修会に事務局が出向き、スポーツ指導者協議会の案内で行っている。
・年間の会費は一人 1,000 円で県スポーツ協会から 25 万の補助金が出ている。
・会員の減少対策がなかなか取り組めてないのが現状である。

千葉県 川喜田 靖彦



本年度より会長が入江から大野に代わりまし

た。
・年会費は 2,000 円/人で県より 20 万円の補助金をいただいている。

・会員数は年々目減りしているが、リーフレットを作成して配布するなど会員増への取り組みをしている。年 4 回の更新研修会の折に説明や新規取得者への案内を行っている。

・更新研修会の受講料は無料で非会員は 2,000 円となっている。会員の年会費 2,000 円が 4 年で 8,000 円になり、非会員の更新時の 2,000 円に不公平を感じているとの声があり、非会員の受講料を 4,000 円にしたいと県と交渉を行っている。

・広報誌の発行は県スポーツ協会の協力で発送していただいている。

東京都 山田 龍彦



スポーツ指導者協議会は発足して 40 年経過していますが、令和 2 年に新規という形で再生を図った。ホームページの作成、ロゴマークの変更そして理事を入れ替え新しいスタートを切りました。

・会員数は旧協議会では 2,000 名いましたが現在は 200 名となっている。

・研修会受講料は会員が 2,000 円で非会員は 3,000 円としている。そこで収入を得ている。

・スポーツ協会からは研修費補助ということで 8,000 円しか出ていません。

・スポーツ指導者協議会の法人化を図りたいという考えがあり、今年は据え置きが早ければ来年には社団法人の取得をしたいと考えている。

・都スポーツ協会が下部組織として認定していないところに金は出せない、意見は聞けないとか全然反応がない。

栃木県 磯 元一郎



県内にあるいろいろな協議会がある中、最初に補助金を減らされているのがスポーツ指導者協議会です。この協議会は何をやった！と予算を握っているところのターゲットになっている。人、物、金と言いますが運営する中で一番必要なのはお金かなと思います。

・県からの補助金は 7 万円です。7 万円の中で年 2 回の理事会、そして関東ブロックの年会費 10,000 円を支出するとほかにあてる予算が無くなる状況です。

・年 2 回 (7 月、2 月) の更新研修会を開催。参加料 1,000 円が協議会の運営費として一時は潤っていたが、日本スポーツ協会の更新研修会の考え方が変わり、この金額が協議会に入らなくなってしまった。更新研修会の通知は対象者にスポーツ協会から郵送している。

茨城県 鈴木 義夫



県スポーツ指導者協議会の現況ですが、「研究討議・情報交換」資料に詳しく記載されていますのでご覧ください。

・現在 1,631 名の会員で、4 年に 1 度年会費 4,000 円を徴収している。

・更新研修会は年 4 回 (8 月、9 月、11 月、2 月) 予定している。参加料は会員 1,000 円に非会員は 3,000 円をいただいている。

ありがとうございました。各都県から現在どのような活動をしているか、課題は何かをお話いただきました。

(4) 情報交換会 (懇親会)

【2 日目】

(1) 各都県の今後の方針発表

「山梨県→神奈川県→千葉県→
東京都→栃木県→茨城県」

(2) 閉会式

開催県お礼のこたば



県北地区研修会



日立市

大岡 紀一

研修会の講演Ⅰでは佐藤誠一氏による「パワハラと選手の成長！悪気がないのになぜ？」、講演Ⅱでは「茂木ゆういち氏によるコミュニケーションが築くキャリアデザイン」とパワハラメントをメインとしたものであった。

日頃、耳にしている言葉ではあるが、いざ研修の場で「パワハラとは？ハラスメントはなくなるの？どのようにして？」など、矢継ぎ早の問いかけに、参加者は、回答に戸惑った様子であった。前者では、参加者の顔ぶれを見ながら、年代に合わせた人気漫画を導入して、時代の変遷とともにコミュニケーションが変化をもたらしただけを講演された。話は人体の大脳皮質にまで及び、言葉は大脳皮質にエネルギーを注入することで、脳が消費できるエネルギーには限界があり、スポーツでは言語化が8割を占めている。要するに、言葉を用いてのコミュニケーションの重要性を強調されたと理解した。その実践に隣席の方と「指導の振り返りを想像して、自分の指導は？」とのテーマでコミュニケーションを体験させられ、実にユニークな体験であったと思っている。後者の研修では、いきなり、「選手のキャリアデザイン」の理由と背景について隣

同士での話し合いが求められ、殆どの参加者は戸惑い、対話も的を得たものではなかったと思われたが、対話形式の問答にはよく応えられていたと感じた。その後、ビジネスコーチングの実践者から見る飯を食うためのデザインができる人としては、考えを実行できることが大切で、それには自分の強みを言語化できることの重要性を説明された。結局、コミュニケーションは語彙力に大きく関係することを学び、同じ失敗を二度繰り返さないようにGROWモデル質問集の紹介も行われた。最後に、語彙数を上げる・下げるの質問例を取り上げ、言葉がより身近なものとなつてはじめて、これまでの二つの講演内容に納得することができた。中々奥の深いテーマに、久しぶりに充実感を味わえた研修であったと思っている。



支部だより

県南支部

支部長

渡辺 吉光

なかなか終息を見ない新型コロナウイルス感染症拡大の中、指導者の皆様におかれましてはご健勝のうえ、研鑽、ご指導にご活躍の事とお慶び申し上げます。

コロナウイルス渦中の中、昨年の11月13日に県南地区研修会が受講生の皆様のご協力の下、阿見町本郷ふれあいセンターにて、無事に開催されました。運営委員の皆さん、お疲れさまでした。また、関係者各位のご支援とご協力に感謝申し上げます。

午前中の講演Ⅰは、津村和寿先生の「活き活きとした選手とチームをつくるために」のテーマで講演していただきました。また、午後の講演Ⅱは、網師野公也先生の「指導者に必要なコミュニケーションスキル」のテーマで講演していただきました。どちらの講演も刷新的な講演で大変参考になりました。ありがとうございます。

今回の県南地区研修会において至らない点もあったかと思いますが、とても良かったし嬉しかった場面がありました。（私見ですが）それは、講演が終了して受講生の皆さんに修了書をお配りする時でした。当初、受講生の皆さんの元に伺って手渡しする予定でした。しかし、それで、運営委員の数も少なく、時間が

掛かりすぎると運営委員がとつさに機転・判断し十人づつ座席から降りてもらい、順番に ①アンケート、②宣言書をいただき、最後に③修了書・受講カード・テニスカードをお渡しして、お帰りいただく事に、急遽、切り替えました。なんとそれが当たりでスムーズに人が流れてあっという間に手渡しが完了しました。運営委員の敏捷なる行動に、とても嬉しく感謝しています。

この地区研修会は隔年で実施されています。今回ご協力をいただいた運営委員の皆さんには今後も県南支部の活性化、充実した研修会を推進できるような是非とも継続してご支援・ご協力をいただけますよう、この席をお借りしてお願いいたします。

これからも県南支部、人手不足を解消しつつ役員全員一丸となり研修の資質向上を図り、充実した県南地区研修会となりますように努力してまいりたいと思います。

中央支部

事務局長

五十嵐 雅晴

指導者の皆さまに於かれましてはそれぞれの競技で工夫を凝らし指導を行って居られると思います。大変ご苦勞様です。

中央支部令和4年度事業報告と令和5年度の活動予定をお伝えします。

☆令和4年度事業報告

(1)総会開催・令和4年4月16日(土)ひたちなか市松戸体育館で開催。会員数304名に対し、参加者数11名、議長委任数が293名で過半数を超え、総会議事を進めました。議

事項は令和3年度事業報告・会計報告、4年度の事業計画・予算審議、役員選出・支部規約の一部改正。

(2)講習会開催 6月5日(土)救急救命講習会の開催。出席15名。

(3)中央支部研修会開催 参加者44名。①講師 中山由起枝氏(オリピック射撃日本代表)

②講師 西村大輔氏(茨城ロボッツ代表取締役)

(4)広報誌『ちゅうおう』の発行

(5)その他役員会の開催

☆令和5年度事業予定

(1)中央支部総会4月16日(日)

(2)中央地区研修会9月3日(日)

(3)支部講習会6月4日(日)

(4)広報発行年2回予定9・3月

(5)役員会開催(役員4回・広報4回・総務2回・事務2回・研修2回を開催予定であります。詳細は、3月と9月に発行する『ちゅうおう』にてお知らせ致します。今年度の中央支部は、会員の皆様の指導状況や考えなどを広報誌『ちゅうおう』にて紹介致し、会員の皆様により一層スポーツの「楽しさ」や「喜び」が作れるよう努めようと思います。

また、会員の皆さまへのお伝えする情報・ニュース等をより早くお伝えする為にメール・HPでの方法を選択肢として考えて参りたいと思います。宜しくお願い致します。



県西支部

事務局長
近藤 康雄

令和4年度、県西支部活動状況をお知らせいたします。会報85号にも載せましたが令和4年5月22日、下妻市千代川公民館にて県西支部総会を開催。9月に救急救命講習会を予定していましたがコロナの関係で消防署より開催できないとの連絡がありやむなく中止となりました。

令和5年度の県西支部活動計画を令和5年1月22日、古河市中央公民館で役員会を開催し、県西支部総会を令和5年5月21日(日)下妻市千代川公民館で開催。同5年11月12日(日)に隔年実施してきた資格更新地区研修会を県西支部主管で開催します。場所については一昨年実施した下妻市千代川公民館を仮予約しました。支部独自の研修会については3月までに検討したいと思っています。1月22日の役員会の中で改選期である支部役員の話し合いがもたれ、一部役員の辞退が発生し最終的な人事は決まりませんでした。ある役員の話しでしたが、以前の協議会の開催(理事会・常任理事会)は日曜日に開催していたが、平日になったため出席できなくなり止む無く欠席になってしまったため辞退との事でした。ボランティアで活動をしているわけで仕事を犠牲にしてまで参加はできないとの事。他の支部でも同じような意見は出ていないのか?理事会の出席者はいつも同じ顔ぶれで開催しているのでは?もう一度原点に返り協議会の在り方、会員に対してのメリッ

ト、デメリットを明確にし未会員に對して周知徹底していけたらと思います。

水戸支部

事務局長
加藤 木すえ子

令和4年度は、9月4日に水戸支部主管の更新研修会をJAGグループ茨城教育センターで開催致しました。協議会役員及び水戸支部役員、そして受講された皆様の協力により、新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、無事終了することができました。大変ありがとうございました。講演Ⅰの「スポーツと栄養」では泉妻先生の、よりよいパフォーマンスの為に何をいづれだけ栄養を摂るか、プレーヤーごとに違い、病気や障害防止のためにも栄養教育は大切だと学べました。講演Ⅱの「コミュニケーションと選手の成長」では岩上先生の、コミュニケーションの大切さを受講者がペアになり話し合いました。最初は遠慮していましたが話をしているうちに、どんどん意見が言えるようになりました。選手的能力を上げる言葉や、パフォーマンスを上げる質問の仕方もたくさん学べました。

10月16日には水戸市上中妻市民センターで、普通救命講習会を新型コロナウイルス感染症対策を取り受講者20名で開催致しました。5人一組になり一次救命処置、胸骨圧迫、AEDの使い方などを講習し受講終了証をいただきました。

令和5年度は、水戸支部総会を四月に行う予定です。また、7月には

県北支部

支部長
梅村 恒雄

普通救命講習会を行う予定です。水戸支部便りを年2回発行する予定です。4月以降水戸支部定例会で決まりました内容を掲載したいと思っています。会員の皆様の昨年以上のご活躍をお祈りいたします。

令和4年度

4月3日 第22回さくらロードレース助勢コロナで中止

4月4日 定例会

支部講習会総会対策

5月15日 支部講習会「背骨コンディショニング」と支部総会

6月8日 定例会

県総会報告・支部総会の反省・まとめ、支部会報対策・友の会報告等

7月4日 定例会

地区研修会テーマ検討、支部会報対策等

8月1日 定例会

地区研修会協力要請

9月5日 定例会

全県研修会報告、地区研修会対策・支部会報校正等

9月15日 定例会

支部会報60号発行

10月3日 定例会

県協議会報告審議・地区研修会対策

支部会報発行準備

10月16日 女性センター祭助勢定例会

11月7日

12月5日	女性センター祭報告 県協議会各種報告審議・ 地区研修会対策 定例会
1月16日	県協議会各種報告審議・ 地区研修会対策 次年度事業計画対策 定例会
1月28日 2月5日	地区研修会現地視察報告 ・友の会報告・地区研修 会役割・準備品確認・県 協議会提出資料確認・表 彰者の確認・支部会報 執筆者対策
2月13日	県協議会報告書提出 県北地区研修会開催 県北生涯学習センター 80名予定62名参加 定例会
3月6日	地区研修会総括・友の会 報告・次年度事業計画案 確認・支部会報61号対策 ・令和5年度支部総会対 策・さくらロードレー ス協力依頼等 定例会
3月15日	支部総会対策・支部会報 校正等 支部会報61号発行・役員 改選等 を予定しています。
	地区研修会は、多々行き届かない 点がありましたが、会員・参加者皆 様のご支援、ご協力を頂き無事終了 することができました。御礼を申し 上げます。

皆様のご投稿を お待ちしております！

【広報募集連絡先】

〒306-0204
茨城県古河市下大野 1463-4
TEL 0280-92-4555
FAX 0280-92-4555
茨城県スポーツ指導者協議会
担当・事務局長 鈴木



次年度の活動予告

- ① 定例役員会
毎月第一月曜日に開催
- ② 各委員会活動
総務・研修・広報委員会の運営
- ③ 支部講習会
「ユニースポーツ」の開催
- ④ 支部会報
「あみご」62・63号の発行
- ⑤ 近隣市町村への協力
日立さくらロードレース給水助
勢、女性センターまつり助勢等
を予定しております。

令和4年度の反省と令和5年度の
事業活動について議論し、役員一同
精一杯頑張りますので、会員の皆様
もぜひ各種研修会にご参加して頂き
ますようお願い致します。

協議会事務局便り

令和5年度全県研修会・地区研修会は4会場で、下記の研修会に
ついて案内文書を、令和5年6月上旬に郵送を予定しております。

令和5年度茨城県スポーツ指導者研修会のお知らせ

(1) 全県研修会

日時 令和5年8月6日(日)
会場 水戸市・J Aグループ茨城教育センター
定員 100名

(2) 中央地区研修会

日時 令和5年9月3日(日)
会場 那珂市・総合センターらぼーる
定員 150名

(3) 県西地区研修会

日時 令和5年11月12日(日)
会場 下妻市・千代川公民館
定員 120名

(4) 鹿行地区研修会

日時 令和6年1月21日(日)
会場 鉾田市・大洋公民館
定員 130名

※全国研修会

日時 令和5年11月～12月予定
形態 ハイブリッド(オンライン・対面)
主催 (公財)日本スポーツ協会

広報委員会

広報委員長 君和田治也(鹿行支部)	広報副委員長 高野 照代(鹿行支部)
高松 淑子(県北支部)	高松 幸子(水戸支部)
金沢 泉(中央支部)	小林 誠(県南支部)
大竹 幹夫(県西支部)	関根あさ子(県西支部)
鈴木 義夫(事務局長)	

編集後記

第八十六号会報発行に当
たり皆様に原稿執筆を賜り
心から感謝申し上げます。
ご愛読いただける会報と
なるよう努力してまいりま
すので、皆様の忌憚のない
ご意見をお寄せ頂きたいと
思います。

次回の会報八十七号発行は
令和五年九月十五日(予定)